

あの日、あの時、あの場所で 被災地から届いた声



「阪神・淡路大震災(平成7年・1995年)」や「東日本大震災(平成23年・2011年)」は、多くの命を奪い、甚大な被害を与えました。近年では異常気象による集中豪雨や台風による河川の氾濫、土砂災害なども各地で発生しています。こうした災害を経験した被災者の声を集めました。

災害時

「まさか、自分が…」。
とっさに行動できなかった。
阪神・淡路大震災 男性

夫の安否が分かったのは3日後。
連絡先を控えておくべき。
東日本大震災 女性

危険だと感じ、
避難勧告よりも早く逃げた。
直後、家が土砂で流された。
広島市の土砂災害 男性

避難時

避難所までの距離が遠かった。
事前に確かめるべき。
東日本大震災 女性

避難所生活

アレルギーのある息子は
配給品をほとんど食べられなかった。
阪神・淡路大震災 女性

町内会の人が情報を筆談で教えてくれた。
日頃からの連携が大事。
東日本大震災 耳が不自由な女性

言葉が全く分からず、
不安だった。
阪神・淡路大震災 外国人男性

職場で被災し、自宅まで歩いて帰ることに。
ヒールのない靴を置いていてよかった。
東日本大震災 女性

薬の名前を控えていた。
すぐに同じものを処方してもらえた。
東日本大震災 ぜんそくの男性



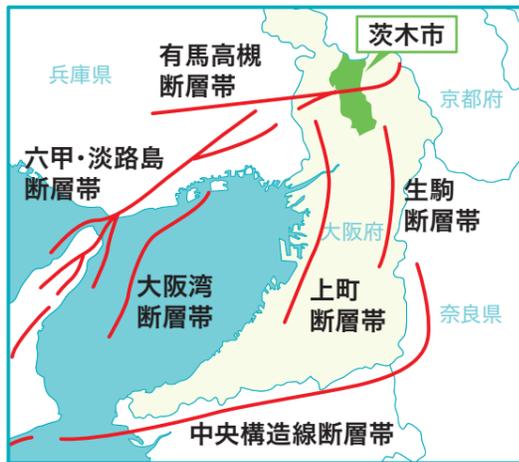
「自分は大丈夫」が危険 被災地の教訓を生かして

西日本最大級といわれる南海トラフ地震の発生は、今後30年以内に60%～90%※程度以上の確率で起こるとされており、いつ起こっても不思議ではありません。

※令和7年(2025年)1月1日現在 政府地震調査研究推進本部発表

茨木市周辺の活断層

市の中心部の真下には有馬高槻断層帯が通り、周辺には生駒断層帯や上町断層帯があります。



数字で見る茨木市の地震最大被害



有馬高槻断層帯(マグニチュード7.5±0.5、震度5弱～7)で地震が起きた時の最大被害を想定。

「いざ!」というときに 日頃からの「備え」を大切に

住居の安全や非常持ち出し品、避難所までの経路などを確認しましょう。家族や近所の人と防災について話し合うことも大切です。

※災害時にすぐ行動できるよう、「いざ!の行動」も合わせて読んでおきましょう。



震災時、「これを用意しておけばよかった!」
と思うものは? >>>
出典 阪神・淡路大震災後の被災者アンケート調査から(神戸市消防局実施)

- 1位 飲料水
- 2位 懐中電灯
- 3位 非常食